

## Ⅲ 検討テーマ(地域課題)の審議と取り組みについて

### 検討テーマ① 「安全・安心のきずなづくりに向けて」



第3期1つ目のテーマは、区民会議委員の中でも最も関心が高かった「安全・安心のきずなづくりに向けて」。平成22年度第2回と第3回で議論を行いました。

第2回区民会議では、防災に関する身近な制度について説明を受け、区民会議委員が考える取り組みのアイデアについて意見交換しました。課題調査部会では、地域での防災訓練などの実施状況や区民意識を調査し、解決に向けた取り組みを検討しました。

これらの審議をうけ、第3回区民会議で、「安全・安心のまちづくりに向けた具体的な取り組み事項」をまとめました。

#### (1) 現状及び課題の把握

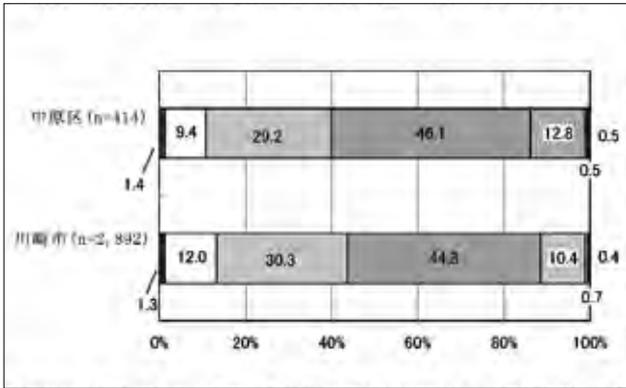
平成22年10月13日に開催された第2回区民会議では、身近な防災に関する制度などの現状や地域福祉実態調査により区民のニーズを把握し、「安全・安心のきずなづくりに向けて」どのように取り組んでいけばよいかを検討しました。

#### ■ 身近な防災の制度

名称	災害時要援護者避難支援制度	第2次 災害時一人も見逃さない運動	避難所運営会議	ひとり暮らし等高齢者見守り事業 ※高齢者支援制度
制度概要	●災害時に自力で避難することが困難な災害時要援護者の方々から名簿登録の申込みをしていただき、地域の支援組織に名簿情報を提供し、地域において共助による避難支援体制づくりを行う。 【H19年12月】	●民生委員児童委員の日頃の活動を通じて、ひとり暮らし高齢者や高齢者だけの世帯、乳幼児を抱える世帯など、要援護者の情報を収集している。この情報を災害発生時に役立てようとする運動。 【H18年4月】	●避難所ごとに地域住民と行政機関が一体となって避難所運営を行うことが必要であるため、地域の自主防災組織を中心として、施設管理者、ボランティア等による避難所運営会議を構成し、避難所の管理運営を行うものとする。	●地域の実情に通じている民生委員の協力のもと、担当地区のひとり暮らし高齢者世帯の世帯状況や身体状況等の実態を把握し、ひとり暮らし高齢者等の話し合いの機会を増やし、安否の確認に役立て、見守りネットワークづくりに活用していく。【H14年9月】
実施者(支援組織)	●町内会・自治会・自主防災組織(住民組織)の代表者	●各地区民生委員児童委員協議会	●自主防災組織を中心とした組織 ●施設管理者(学校)、ボランティア等	●民生委員児童委員
制度所管	●総務局危機管理室、健康福祉局地域福祉課共管	●全国民生委員児童委員連合会	●中原区役所地域振興課	●健康福祉局高齢者在宅サービス課

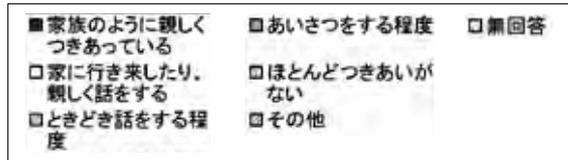
## ■第2回川崎市地域福祉実態調査(平成22年3月)

### 1 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

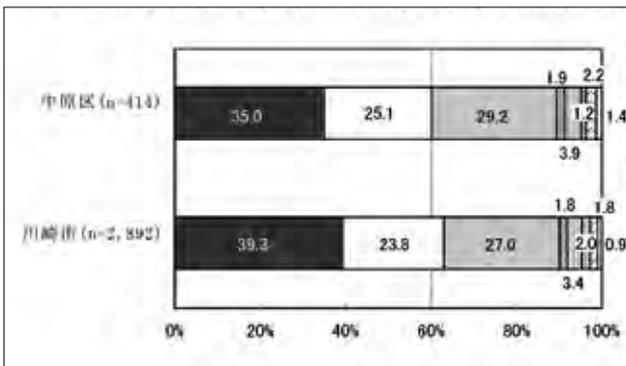


#### ■近所とのつきあいの程度

- 「あいさつをする程度」が最も多く、4割を超えている
- また、「ほとんどつきあいが無い」が市を2.4%上回っている

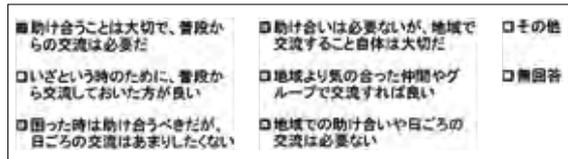


### 2 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

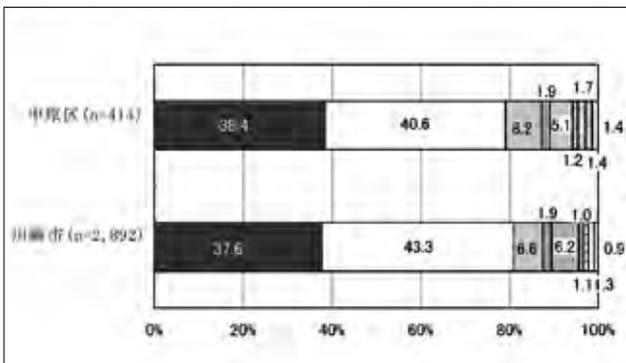


#### ■近所つきあいについての考え方

- 「助け合うことは大切で、普段からの交流は必要だ」が35.0%で最も多く、次いで「困った時は助け合うべきだが、日ごろの交流はあまりしたくない」が29.2%、「いざという時のために、普段から交流しておいた方が良い」が25.1%となっている

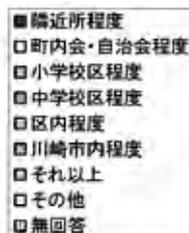


### 3 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

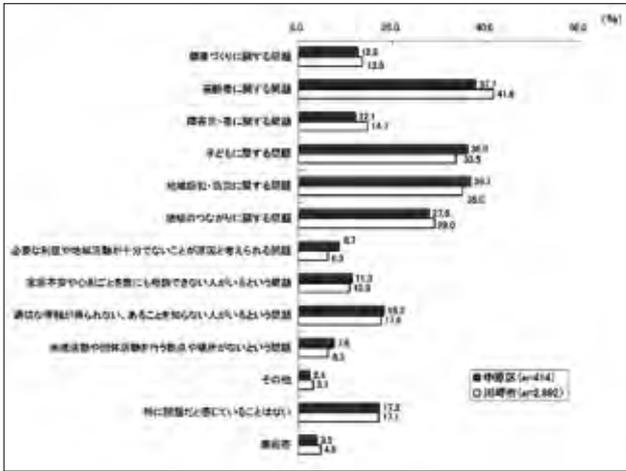


#### ■助け合いができる「地域」の範囲

- 「町内会・自治会程度」が40.6%、「隣近所程度」が38.4%となっており、ごく身近な範囲を「地域」だと考える人が多い



#### 4 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。 (あてはまるものすべてに○)

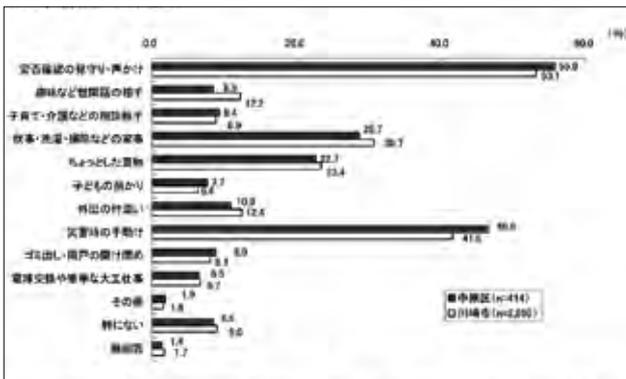


#### ■「地域」で問題だと感じていること（複数回答）

○「高齢者に関する問題」が37.7%で最も多く、次いで「地域防犯・防災に関する問題」が36.7%、「子どもに関する問題」が36.0%、「地域のつながりに関する問題」が27.8%と多くなっている

○市と比較すると、「高齢者に関する問題」が3.9%下回り、「子どもに関する問題」が2.5%、「地域防犯・防災に関する問題」が1.7%上回っている

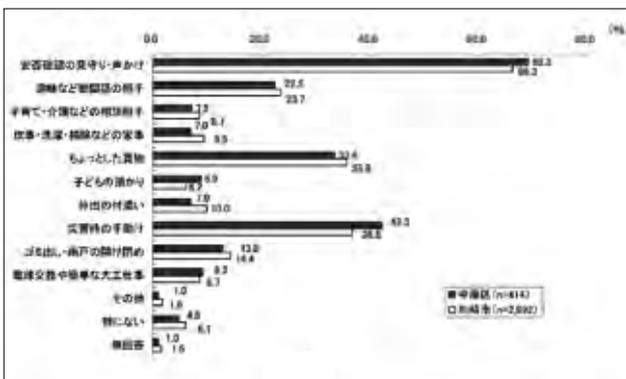
#### 5 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）



#### ■日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにしてもらいたい手助け（複数回答）

○「安否確認の見守り・声かけ」や「災害時の手助け」を求める人が多く、市と比較すると前者は2.7%、後者は5.0%多い

#### 6 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）



#### ■地域の支え合いとして、自分自身ができること（複数回答）

○「安否確認の見守り・声かけ」と「災害時の手助け」に関心を示している人が多く、市と比較すると前者は3.0%、後者は5.5%上回っている

## (2) 区民会議委員の意見

会議では、区内の課題の現状や地域における活動を踏まえて、区民会議委員による議論が交わされました。

- ・防災は非常に興味を持っている方が多く、防災訓練をやると、町会に加入がない方も防災訓練には出てきてくれる。それにより、防災の新しい仲間が増え、町会に加入する人も増えるのではないかと。
- ・中原区地域教育会議などと連携して、中学校区ごとの避難訓練を実施したらどうか。
- ・自分の命は自分で守る、自分たちの町は自分たちで守る。向こう三軒両隣の人間関係が大切である。
- ・周辺の危険箇所を集めてマップ作りをやるなど、簡単なこと、出来ることから始めることでコミュニティは作られる。



- ・今回紹介された防災に関する制度を知らなかった。また、災害時には若い力が必要となる。既に地域に定着しているイベントで若い人も含め、制度について情報発信したらどうか。
- ・人が多く集まる場所に、防災の備えなどの掲示物や自分の避難所の地図を貼り出しする。また、「こんにちは赤ちゃん事業」の訪問の際に自分の避難所が何処かなどをお知らせしておく。

- ・子育て中の世代に向けての防災意識の構築が必要である。





## ② 第2回課題調査部会(平成22年11月30日開催)の審議

第2回課題調査部会では、避難所運営訓練に参加した委員からの報告や区が主催するイベントで行ったアンケート調査についての結果を踏まえ、課題解決に向けた具体的な取り組み(具体的な実行方法・実行主体・実行時期)について議論しました。



- ・ 中原区区民会議委員が、上丸子小学校避難所運営訓練(平成22年11月14日)、中原中学校避難所運営訓練(平成22年11月28日)に参加しました。
- ・ 2会場の訓練で300人を超える参加があり、地域での防災に関する意識の高さが伺えました。

・ なかはら子ども未来フェスタ(平成22年11月27日)で来場者を対象にアンケート調査を行いました。

・ 30代を中心とした若い子育て世代の来場者の防災に対する意識について約300名の実態を調査しました。

